

大会名 Competition	第21回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-112	Year Month Day Time 2008 年 5 月 5 日 10 : 30
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A		チーム B
春日部	(25 1st 29 15 2nd 14 9 3rd 29 14 4th 17 OT)	台湾
63 ●		89 ○

主審:Referee 山崎 仁士 大阪府
副審:Umpire 北沢 岳夫 宮城県
渡邊 亮 福島県
テーブル・オフィシャルズ:Table officials
能代高等学校

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	／	摩庭 大河	CAP	0	0	0	0	0	4	×	頼 國 維	CAP	6	0	2	2	1
5	×	清水 隆亮		23	3	4	6	3	5	／	彭 俊 諺		4	0	1	2	1
6	×	新田 華武伊		7	0	3	1	4	6	×	李 明 暉		15	5	0	0	0
7	×	藤森 康平		11	0	5	1	4	7	×	林 力 仁		7	0	3	1	0
8	／	川崎 裕介		1	0	0	1	1	8	／	頼 柏 霖		2	0	0	2	1
9	／	富澤 佑也		2	0	1	0	0	9	／	張 伯 維		8	0	4	0	4
10	／	境 一樹		0	0	0	0	0	10	／	黄 文 鉅		8	0	4	0	0
11	／	高葉 龍		0	0	0	0	0	11	／	楊 曙		4	0	2	0	1
12	／	池澤 舜		2	0	1	0	1	12	×	黄 家 明		19	0	8	3	2
13	／	渡辺 隼人		0	0	0	0	0	13	／	林 永 浩		4	0	2	0	0
14		小原 佑真		-	-	-	-	-	14	／	蘇 柏 彰		0	0	0	0	0
15		田中 颯		-	-	-	-	-	15	×	周 柏 臣		12	0	5	2	3
16	×	倉林 紀和		13	3	1	2	2					-	-	-	-	0
17	×	時野谷 勝幸		4	0	2	0	2					-	-	-	-	0
18		秋元 政彦		-	-	-	-	-					-	-	-	-	0
コーチ		伊澤 暁							コーチ		楊 宜 峰						
Ａコーチ		山岸 率							Ａコーチ		謝 玉 娟						
		合 計		63	6	17	11	17			合 計		89	5	31	12	13

※×:スター 〃:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第21回能代カップ最終日。台湾選抜は2勝1敗と、優勝するためには負けれない試合。対する春日部は、能代カップ初勝利を目指し、地元インターハイ開催に弾みをつけた一戦となった。

第1Q、両チームマンツーマンでスタート。序盤、台湾選抜は#12黄家明、#15周柏臣のシュートなどで加点していく。対する春日部は、#7藤森のジャンプシュートで応戦。残り6分まで互角の戦いとなる。しかし、春日部は徐々に台湾の高さに苦しみだし、次第に点差が離れた。一気に突きはなしたい台湾選抜だったが、イージーミスが目立ち、なかなか点差を広げることができない。逆に第1Q終了間際、春日部#5清水に連続3Pを決められ、25-29と4点差に縮められて第1Qを終了する。

第2Q、春日部は#7藤森のジャンプシュート、#16倉林の3Pで残り8分で逆転に成功する。なかなか本来のリズムを取り戻せない台湾選抜はディフェンスを3-2に変更し、立て直しを図る。しかし、春日部も必死のディフェンスで一步も譲らない。その後は両チームともシュートに精細を欠き、約4分間同点のままノーゴールの状態が続く。先にこの状態を抜け出したのは台湾選抜。#12黄家明、#7林力仁のシュートで35-41と6点差を広げる。対する春日部も意地を見せ、残り2分から#5清水のシュートで譲らない。結局、40-43と台湾選抜が3点リードで折り返す。

第3Q、春日部はディフェンスを3-2ゾーンに変更してスタート。序盤は互角の状態が続くが、残り7分、台湾選抜は#7林力仁のシュートをきっかけに怒濤の攻撃を開始。激しいディフェンスから速攻が決まりだし、2分間で13点差をつける。春日部はすかさずタイムアウトを請求し立て直しを図るものの、台湾選抜の3-2ゾーンを崩すことができない。逆に春日部は3-2ゾーンを完全に攻略され、点差が離れていく。残り1分、春日部は2回目のタイムアウトを取り、ディフェンスをマンツーマンに戻す。終了間際、春日部#5清水のシュートが決まるが、追い上げには至らず、第3Qは49-72で終了。

第4Qになっても台湾選抜の勢いは止まらない。激しいディフェンスで春日部を圧倒。アウトサイド、インサイドを完全に支配し、試合を優位に展開していく。春日部も#6新田、#17時野谷のシュートで対抗するが、差を縮めることができない。このまま試合が進み、結局63-89で台湾選抜が勝利した。